



2009年中の事件事故発生状況と安全のための注意事項について

平成22年4月8日
在カンボジア日本国大使館

海外において安全に過ごすためには、治安情勢を把握して、常に犯罪や交通事故に対する警戒を怠らないことが重要です。2009年中におけるカンボジアの事件事故発生状況と安全に過ごすために注意すべき事項をお知らせしますので参考にしてください。

記

1. 2009年中におけるカンボジアの事件事故発生状況について

(1) 一般犯罪

犯罪件数については、2003年以降年々減少傾向にありましたが、2009年は増加に転じ、3,456件（前年比575件増）の犯罪が発生しました。

【2003年以降の犯罪発生件数】

2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
5,688	4,996	4,484	4,456	3,732	2,881	3,456

犯罪の形態別では、殺人事件381件（前年比54件増）、強姦事件247件（前年比41件増）、窃盗事件1,097件（前年比310件増）、暴行傷害事件978件（前年比148件増）が急増しました。

また、昨年は、複数の州において自動小銃を使用する武装強盗団による商店街や主要道路沿いの貴金属店、両替商等を狙った強盗事件が連続発生したほか、武装強盗団が富裕層の集まる喫茶店を襲撃し、客の所持金品を奪うという、これまでに例のない外国人居住者や旅行者が巻き込まれる危険性の高い形態の事案も発生しました。

(2) 交通事故

交通事故については、車やオートバイの増加に伴って事故件数、死者数及び負傷者数の増加に歯止めがかからない状況となっています。2009年は、6,021件の交通事故が発生し、1,654人が死亡、10,310人が負傷しました。

【2003 年以降の交通事故件数】

2003 年	2004 年	2005 年	2006 年	2007 年	2008 年	2009 年
3,516	3,305	3,782	3,834	5,870	6,214	6,021

2 . 外国人に係る犯罪発生状況について

(1) 外国人が被害者となるケース

外国人向けのレストランやバーのあるエリアにおいて、複数の子供やマッサージの客引きに取り囲まれ、気がつくとも財布をとられていたという事案が報告されています。また、バイクタクシーやトゥクトゥクの運転手による客引きの際にも同様の被害が発生しています。

人の集まるマーケットや遺跡を観光中にスリやひったくりの被害に遭うケースが後を絶ちません。

(2) 外国人が被疑者となるケース

児童買春で逮捕される外国人が多数います。現在、カンボジアでは人身売買及び児童買春の取締りを強化しており、被疑者の厳罰化が図られています(殆どの場合、執行猶予のない2～6年の実刑判決となっています。)。

外国人旅行者が違法薬物の所持または使用により逮捕されるケースが増加しています。僅かな量の薬物でも実刑判決を受ける例が殆どです。また、密売人が犯罪集団と手を組んで「警察に通報する。」などと恐喝する事案も報告されています。

(3) 日本人が巻き込まれた事件

最近、ホーチミンやタイからの長距離バスで知り合ったり、マーケット等で声をかけられて親しくなったアジア系外国人(フィリピン、シンガポール、マレーシア国籍を名乗る者が多い。) による犯罪被害報告が急増しています。たまたま旅先で知り合った人物が高負担をしてまで親切にしようとする申し出には裏があると考え、慎重に行動してください。

長距離バスで親しくなったアジア系外国人からホテルの部屋をシェアしようと提案され、同じ部屋に泊まることにした。チェックイン後、エステに誘われ、「代金は私が払ってあげるから3時間のコースを一緒に受けよう。」と勧められ、終了後にフロントで落ち合う約束をして個室に入った。フロントの係員から、連れはエステを受けずに帰ったとの説明を受け、急いでホテルに戻ったところ、相手の荷物はなく、自分のバックのダイヤル錠が開けられ、入れておいた現金とトラベラーズチェックが盗まれていた。

マーケットで声をかけられて親しくなったアジア系外国人から、「兄が航空会社に勤めているので飛行機をアップグレードしてあげる。」との申し出を受け、兄と名乗る人物と電話で話したところ、手数料１０ドルを支払えばアップグレードできるのでクレジットカード番号と暗証番号を教えるよう求められたため教えた。結局、飛行機はアップグレードされておらず、帰国後にクレジットカード会社から身に覚えのない高額の見物の請求を受けて始めて被害にあったことがわかった。

長距離バスで親しくなったアジア系外国人から親族の結婚式に招待を受けて一緒に会場に向かったところ、住宅に連れ込まれ、無理矢理カードゲームに参加させられて大金を巻き上げられた。

３．安全対策上の注意事項

（１）安全の手引き

大使館では、在留邦人並びに日本人旅行者が安全に過ごせるよう、内務省、国家警察及び各州市警察本部等から治安に関する情報を収集し、当館ホームページに掲載しています。特に、当地での防犯対策及び緊急事態発生時の行動について記した「安全の手引き」はご一読下さいますようお願いいたします。

緊急時には、電話が通じない場合にプノンペン中心部についてはFM放送(88.60MHz)を使ってお知らせします。また、当館とJICAカンボジア事務所及びプノンペン補習授業校とは短波無線を使っての通信が可能です。シアムリアップについては、カンボジア・ティータイム様にお願いして、長距離無線機を設置させていただいております。

（２）在留届の提出について

在留届にメールアドレスを記載されている方には、当館より安全情報を配信しています。また、皆さんが事件・事故や思わぬ災害に巻き込まれた場合には、在留届をもとに皆様の所在地や緊急連絡先を確認し援護活動を行います。

在留届は、いわば外国で居住する際の住民票です。カンボジアに在留される際は忘れずに提出してください。

在留届用紙は、大使館の領事窓口にて配布しているほか、外務省のホームページからも入手可能です。また、遠隔地にお住まいの方には用紙を郵送いたしますので、返信用封筒に切手を貼って申し込んでください。

（３）一般的注意事項

カンボジアにおいて楽しくお過ごしいただけるよう下記の点に十分注意し、ご自

身及びご家族の安全により一層ご配慮ください。

安全といわれているエリアでも 2 3 時以降の外出は控える。

外出の際は、ネックレスやイヤリングなどの装飾品は身につけない。荷物も極力持たないようにし、やむを得ず持つ場合は常時荷物を視野に入れ、身体の正面でしっかりと把持する。

違法薬物の売買が行われているエリア、並びに売春婦の集まっているエリア等の危険な地域には近づかない。

違法なサービスを行うナイトクラブ等は利用しない。

バイクタクシー、トゥクトゥクの利用にあたっては、使用したことのある信頼できるドライバーを電話で呼ぶ、旅行代理店から紹介を受ける、或いはホテルやレストランの従業員に顔見知りの運転手を指定してもらう等の方法が望ましい。また、乗ったからと行って気を抜かず、指示と異なる方向に向かっていないか常に周囲の様子を確認する。

夜はタクシーを利用し、バイクタクシー、トゥクトゥクの利用は避ける。

安価なゲストハウスは利用しない。ゲストハウスの手配についても飛び込みは避け、旅行代理店を通じて予約することが望ましい。

4 . カンボジア国家警察からのお知らせ

カンボジア国家警察より、これからの季節に増加する犯罪に関する注意喚起がありましたのでお知らせします。

4 月から 5 月にかけて、カンボジアは最も暑い季節となります。この時期は風通しをよくしようと窓や扉を開けっ放しにする機会多くなり、それを狙った侵入窃盗や屋外から窓越しに手を入れて机の上に置いてある貴重品を盗むといった犯罪が増えます。

目の届かない場所の窓や扉を開けっ放しにしないよう心がけるとともに、貴重品は鍵のかかる引き出しに収納するなどして被害に遭わないよう努めてください。

(問い合わせ先)

在カンボジア日本国大使館

電話交換業務時間 : 月曜日から金曜日 08 : 00 ~ 12 : 00 14 : 00 ~ 17 : 45

領事窓口取扱時間 : 月曜日から金曜日 08 : 00 ~ 12 : 00 14 : 00 ~ 16 : 30

電 話 0 2 3 - 2 1 7 - 1 6 1 ~ 1 6 4 F A X 0 2 3 - 2 1 6 - 1 6 2

ホームページ <http://www.kh.emb-japan.go.jp>

Eメール（領事）consular.jpn@pp.mofa.go.jp

電話交換業務時間以外の緊急連絡先 ： 0 1 6 - 8 3 5 - 4 0 4

0 1 6 - 8 3 5 - 4 0 7

0 1 6 - 8 3 5 - 4 1 9

休館日の緊急連絡先 ： 0 1 2 - 8 3 5 - 4 3 0

（了）